

研究主題 「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」
～子ども同士の対話的コミュニケーション活動を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

ア 対話的コミュニケーション活動を取り入れる取り組み

- ・実践カードの活用及び実践の開発をする。
- ・全教育活動での場や方法、内容を工夫する。
- ・算数科の活用問題への取り組みを行う。
- ・実践を公開し合い、授業力を高める。

イ 学習環境づくり

- ・学習習慣の確立…学習規律（まきーのたね）の徹底
- ・学級力づくり…Q-Uテストの活用，学級力向上プロジェクトの活用
- ・さわやかタイムや放課後等の有効活用，家庭学習の充実

(2) 研究の方法

- ア 基本的には全体会での研究を行うが，内容によってはブロック（低学年・高学年）に分かれて研究を深める。
- イ コミュニケーションアンケートを実施し，児童の実態を把握する。
- ウ 学校生活全体を通して，対話的コミュニケーション活動に取り組む。
- エ 研究授業を1本行う。（指導主事招聘）
- オ 一人一実践の授業公開を行う。（ブロック内で参観し合う。）

2 研究実践

(1) 理論研究【7月】

「対話的コミュニケーション活動を学力向上につなげていくための手立てについて」

「学習環境作りについて」

指導 山梨県教育委員会義務教育課 指導主事 内田 浩恵 先生

(2) 研究授業【12月】

第4学年 算数科 「広さを調べよう」

授業者 内藤 健 教諭

指導 山梨県教育委員会義務教育課 指導主事 富士池 慎一 先生

(3) 対話的コミュニケーション活動を学力向上につなげる実践

ア 学級力向上プロジェクトへの取り組み

- ・考えを受け止め合い，学習を深め合うことのできる学級集団づくり。

イ 学校生活の中での、話すこと・聴くことの日常化

・協働的な学びによる学ぶ意欲や学びの質の向上をめざす。

ウ 算数科の活用問題への取り組み

・課題解決の手段の一つとして、対話的コミュニケーション活動を取り入れる実践。

II 研究の成果

1 成果

- (1) 今までの実践を活用しながら、子どもの実態に合った対話的コミュニケーション活動を仕組んだり、常に授業に取り入れようとしたりなど、意識的に実践することができた。また、研究4年目ということから、児童への働きかけが継続的に定着してできるようになったり、児童の様子からも日常の取り組みの成果が感じられたりした。
- (2) コミュニケーションアンケートを年に2回行ったことにより、児童の変容をみとることができ、結果に応じた指導をすることができた。
- (3) 全校で「家庭学習のめやす」や「学習のきまり」の確認をし共通認識のもとで取り組めた。また、成果物として残るものが作成できた。
- (4) 統合準備のため、校内研の回数を減らさざるを得ない状況であったが、限られた時間を有効に使い、研究を効率的に進めた。

2 課題

- (1) 研究仮説の検証が十分とは言えない。客観的な検証方法についてが課題である。対話的コミュニケーションのさらなるレベルアップをめざす手立てとは何か考えていきたい。また、考えの高め合いや練り合いが子どもたちの意見交換の中でできるようにしたい。
- (2) 高学年になるとコミュニケーションに対する得手不得手ははっきりし、アンケート結果だけでは変容が見取りにくい。細かな変化を見取る手立てが必要だ。
- (3) 一人一実践の公開を行ったが、時期が集中してしまい、参観し合うことができなかった。
- (4) 学習習慣や家庭学習については今後も継続して家庭に伝えていきたい。また、学習のきまりを作ったが、生かされているか検証したい。

III 成果物

- 1 対話的コミュニケーション活動実践カード
- 2 算数科4年「広さを調べよう」指導案・一人一実践授業案
- 4 学習のきまり（低・中・高学年版教室掲示，家庭配布用）

（研究主任 倉田和美）